



完成イメージ図



(左から) 山名淡路市副市長、守本市長、上崎洲本市長、川崎重工業株式会社、眞田執行役員、田坂関西支社長

淡路島内では、洲本市・南あわじ市の可燃ごみは「やまなみ苑」、淡路市の可燃ごみは「夕陽が丘クリーンセンター」で焼却処理を行っています。両施設の老朽化に伴い、現やまなみ苑の西隣に島内唯一となる新可燃ごみ処理施設を建設することとしています。(令和11年4月供用開始予定)

それに先立ち、2月20日、洲本市役所で川崎重工業株式会社関西支社を代表とするグループと広域ごみ処理施設の整備・運営事業(事業主体・淡路広域行政事務組合)の契約締結式が行われました。

令和11年4月供用開始予定 淡路地域広域ごみ処理施設を建設

施政方針

子育ての喜びが見えるまちの実現を目指して ～人と地域の可能性を伸ばす成長予算～



施政方針全文



議会で施政方針を述べる守本市長

2月21日に招集された第130回市議会定例会において、守本市長が市政運営の基本方針や主要施策をまとめた施政方針を述べました。その概要をお知らせします。なお、施政方針の全文と予算の詳細は市ホームページからご覧いただけます。(予算と主要事業の記事は4～7頁)

【時代認識と市政理念】

昨年は、自然災害、地球温暖化、少子高齢社会の更なる進行、政治経済の大きな変化などが実態を持つて迫る年となりました。その大きな変化を受け止め対応していくことが求められる基礎自治体の舵取りがより重要になっています。南あわじ市では、食料生産力、自然、文化、地理的環境、そして勤勉で強い絆を持つ住民という強みを最大限に伸ばすべく、五つの柱で未来志向の取り組みを進めてきました。今後、更に将来を支える若い力を育て、招き入れることが出来るよう、市役所の機能を向上し、施策のレベルを引き上げながら、五つの行動を実行してまいります。

【五つの行動】

第一の行動 超高齢社会の克服

国全体で高齢化が進む中、本市は、高齢者就業率が4割と、健康長寿で活躍するシニア層が多く、女性の就業率も非常に高い地域で

す。この強みを活かし全員参加の社会づくりを目指すため、シニアの方々はじめとする多様な活躍の場の創出、市民の健康づくりと健康寿命の延伸を進めるとともに、移動の利便性向上等を目指し公共交通を充実させてまいります。また、総合的福祉プロジェクトを通じて、複雑化する市民の生活上の困難の緩和や解決に努めます。

第二の行動 子育て環境の向上と教育の充実

子育て環境は、地域の魅力を左右する重要な要素です。本市は、地域全体が子ども達を応援し、その喜びを分かちあう「子育ての喜びが見えるまち」の実現を目指しています。学校教育では、ふるさと創造学習や読解力の向上など、探求心や学び合いの精神を高め、これからの社会を生き抜く力を育てる「学ぶ楽しさ日本一」を追求します。また、アフタースクールはじめ、子ども達が地域の人々に見守られ成長する場を拡充するとともに、市内企業も参加する「子育て応援コンソーシアム」を通じて、地域全体で仕事と子育て・介護を両立できる働き方の実現に取り組みます。また、休日保育はじめ保育・出産環境の充実を図ってまいります。

第三の行動 地域の資源を活かした地元産業の活性化

本市の産業の特徴は、農畜水産のブランド産品を誇る一次産業、自然や歴史、文化などを活かした観光産業、地場産業の三つの柱です。「世界一の食の島」を目指す取り組みにより、これらの三つの柱が相互に支え合う好循環を作ります。また、地域計画に基づく営農の効率化や新規就農の促進、圃場整備、漁場再生、畜産支援など二次産業の振興に注力します。

新規起業支援はじめ地域商工業の活性化を進めるとともに、担い手・後継者不足に対応する移住・定住政策の強化に取り組みます。淡路島の豊富な魅力や、地域の資源を活かした地元産業の活性化に取り組んでまいります。

第四の行動 安全・安心のまちづくり

気候変動による自然災害などに備えるため、津波や内水対策等ハード整備、消防団の組織強化、防災行政無線の更新等、人的物的整備を充実させるとともに、総合防災訓練や自主防災組織の活動促進を通じて地域住民の備えを強化します。

また、道路や河川等の維持管理について、自治会による作業への助成範囲を拡充し、きめ細かな対応と市による重点的な整備の両立を図ります。また、グリーンベルト等、通学路の安全確保を進めます。

安全で、安心できる生活環境のため、警察とタッグを組み、巧妙化する特殊犯罪の抑制や交通事故の減少に向け効果的な啓発に努めます。また、市民の皆さまの協力のもと、製品プラスチックの分別収集資源化などに取り組み、ごみの減量化を促進します。

第五の行動 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

地域や各種団体との対話により、課題を共有し、市民の皆さまの理解と協力のもとで効果的な解決方策を立案し、円滑に実施してまいります。そのため、若者の参加を促進し、地域づくり協議会ははじめ地域コミュニティの組織・活動強化を進めます。市の施策等の様々なメディアを通じて分かりやすい発信と良質な対話を継続してまいります。

また、情報技術の導入や庁内連携を推進し、市民と協働して施策を立案・実行できる人材育成・組織開発に取り組み、働きやすさと働き甲斐を両立した職場づくりを進めます。

子育て応援コンソーシアム 事例発表会&トークセッション



吉備国際大学で開催した事例発表会&トークセッション

子育て応援コンソーシアムの参画企業は、これまでの勉強会や講義を踏まえ、各社で創意工夫しながら働きやすい職場環境づくりに取り組んできました。これらの取り組みを他の企業の参考とするため、2月18日に吉備国際大学で成果や課題などを発表し、学生を含む参加者全員で意見交換を行いました。



市ホームページ

第4期南あわじ市 教育振興基本計画策定



市ホームページ

市では「学ぶ楽しさ日本一」を基本理念に掲げ、第4期南あわじ市教育振興基本計画を策定しました。計画期間は令和11年度までの5年間で、計画の策定においては、15人で構成する計画策定委員会に諮問。2月27日に計画最終案の答申があり、同委員会の相野公孝委員長か

ら新宅教育長に答申書が手渡されました。今後は同計画に基づき、「学ぶ楽しさ日本一」生涯を通じて、学びのいぶきがみなぎるまちづくり」を掲げ、すべての市民が生涯を通じてどんなときでも楽しく学ぶ機会を持ち、心豊かな日々を送ることが出来るまちづくりに取り組んでいきます。



計画策定委員会の相野委員長(左)から答申書を受け取る新宅教育長(右)